

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

◆志の高いリーダーを育成する学校

「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校

○めざす学校像を示す4つのキーワード

- 1 「心を鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
- 2 「知を究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
- 3 「人と繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
- 4 「将来を描く」…将来にわたる社会との繋がりを描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する

(1) 学力定着・向上に向けての取組みの推進

- ア 「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上
- イ 基礎学力調査や教育産業による学力分析システムで生徒自身が学力定着度を確認するための生徒1人1台端末の活用
- ウ 「個別最適化」への対応の観点で踏まえた講習の実施や学習アプリなどの活用
* 2年次第1回「学力実態調査」における国数英GTZ「A2」以上。[R4:A3 R5:A3 R6:A3 →R9:A2]

(2) 教員の授業力の向上

- ア 授業力向上プロジェクトチーム（JKP）の先導による「主体的・対話的で深い学び」の推進と、それに伴う思考力・判断力・表現力の育成
- イ 生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部への授業公開。
- ウ ICT機器の効果的活用による授業の質的変容と、生徒の授業参加への主体性向上
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:94.0 R5:96.6% R6:96.7% → R9:90%超維持）

(3) 「DXハイスクール」等としての取組みの推進及び、「普通科改革」の動向を踏まえたカリキュラム研究

- ア DXハイスクール推進に向けて組織体制の確立及び教員研修・学習会の実施、並びに「探究」を軸とした高大連携の深化、企業等社会資源の活用推進
- イ 「学際領域に関する学科」や「地域社会に関する学科」等の普通科改革についての研究
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:74% R5:90.6% R6:88.8% → R9:90%超維持）

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

(1) 生徒自身で掲げた「進取果敢」のスローガンのもと、自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実

- ア 職業調べや探究活動を通じた、将来の進路や生き方について考える力の育成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:83.4% R5:86.9% R6:90.0% → R9:85%超維持）
- イ 自らの将来像を描くうえでの外部人材の活用と、大学等への訪問企画の充実
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:85.3% R5:67.3% R6:76.3% → R9:80%超）

(2) チーム泉陽による進路指導体制の確立

- ア 本校進路指導の全体構想「泉陽キャリアグラウンドデザイン（CGD）」に基づく3年間を見通した取組みの推進
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:96.0% R5:94.9% R6:98.4% → R9:90%超維持）
- イ 教育産業と連携した模試・学力実態調査の実施及び、その結果分析に基づく教科ごとの対応・取組の推進
- ウ 進路指導における統合ICTを活用した情報共有化の推進
* 生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上
（R4:生徒87.0%・保護者85.6% R5:生徒91.3%・保護者89.0% R6:生徒93.8%・保護者93.2% → R9:90%超）
* 現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合の維持（R4:35.0% R5:35.1% R6:37.4% → R9:40%超）

3 人としての豊かな見識と情操を育てる

(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成

- ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障
* 部活動加入率90%超の維持（1年次）（R4:93.1% R5:94.7% R6:97.2% → R9:90%超維持）
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:76.7% R5:75.2% R6:73.5% → R9:80%超）
- イ 生徒会活動の活性化による「自主的な学校行事」の促進
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の維持（R4:96.4% R5:97.0% R6:98.6% → R9:90%超維持）
- ウ 堺市堺区や堺警察と連携した清掃活動・ボランティア活動の推進と1部活動1ボランティア運動の実施
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:84.9% R5:85.6% R6:92.0% → R9:80%超維持）

(2) 連続性ある人権教育と日常的な生徒指導の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成

- ア 人権教育推進委員会を軸に作成した人権教育計画に基づく、3年間の教育活動全体を通じた人権感覚の醸成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:88.7% R5:90.1% R6:93.5% → R9:90%超）
- イ 学習活動の基盤となる基本的生活習慣の確立と、挨拶等を含めた社会的マナーの涵養
* 遅刻数（1クラス当たり）の前年度比減（R4:110回 R5:149回 R6:89回 → R9:50回以下）
- ウ 多様性を育み、論理的に物事を考え、自分の考えを的確に伝える力の育成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:70.8% R5:70.0% R6:80.4% → R9:80%超）

(3) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進と幅広い教養の育成

- ア 朝読やビブリオバトル、リーディングマラソン、百人一首大会、「青春の短歌大会」などの取組み及び、生徒図書委員会の活性化による読書習慣の確立
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:49.4% R5:39.0% R6:33.7% → R9:50%超）

(4) 国際交流の推進による異文化理解の深化と国際的視野の拡張

- ア 海外研修の継続・発展及び、海外の学校と姉妹校提携への取組み推進
- イ 文部科学省による「トビタテ！留学JAPAN」や「AIG高校生外交官プログラム」などへの応募推奨
* 語学研修への参加者数の安定的維持及び、海外の学校との交流の深化（H30:35名 R5:53名 R6:32名 → R9:35名程度）

4 チーム泉陽として課題解決にあたる教職員集団をつくる

(1) 学校の教育課題に対して情報共有を図り、全教職員で取り組む組織文化の醸成

* 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:66.0% R5:76.3% R6:70.5% → R9:80%超）

(2) 教育相談・生徒支援体制の整備及び、SC・SSW等の人材活用による外部機関との連携体制の確立

* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上（R4:67.5% R5:80.9% R6:84.7% → R9:80%超維持）

(3) 見直しによる業務の削減及び、効率化と平準化の推進

* 時間外勤務時間の減少と、月80時間以上の解消。（R4:35時間53分 R5:32時間10分 R6:30時間14分 → R9:28時間未満）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]					学校運営協議会からの意見																																																															
0. アンケート回収率等 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>R7回答率</th> <th>参考:R6</th> <th>質問数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>723/957</td> <td>75.5%</td> <td>85.1%</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>829/957</td> <td>86.6%</td> <td>85.1%</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>59/59</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>調査は学習支援連絡網のアンケート機能を使用し、概ね12月初旬から末頃までに実施した。生徒の回答率が昨年度に比して10ポイント近くも低下したのは、一斉調査の当日に授業アンケートも同時に行い、学校教育自己診断が後回しになったことが影響したと考えられる。次年度、実施形態を再考する。</p>						回答数	R7回答率	参考:R6	質問数	生徒	723/957	75.5%	85.1%	21	保護者	829/957	86.6%	85.1%	21	教職員	59/59	100%	100%	20	第1回(5月22日) 【本校のアドミッションポリシーについて】 ・本校のスローガンである「進取果敢」の内容が、中学生に伝わりやすい文言に変更してはどうか。 【広報活動について】 ・SNSを活用した情報発信の強化は必須であり、若い世代になじみがある具体的SNSの活用に関する提案。 ・ハッシュタグの活用や生徒が主体となるSNS発信に関する提案。 ・食堂のメニュー紹介・日常の学校生活等、中学生が知りたい内容の発信。 ・学校側の内容確認の必要性和タイムリーな話題を提供できる体制の構築をいかにするか。																																											
	回答数	R7回答率	参考:R6	質問数																																																																
生徒	723/957	75.5%	85.1%	21																																																																
保護者	829/957	86.6%	85.1%	21																																																																
教職員	59/59	100%	100%	20																																																																
I. 昨年と同様、三者(二者)ともに肯定率が高いもの(値:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目 ※【生】=生徒・【保】=保護者・【教】=教員</th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> <th colspan="2">教職員</th> </tr> <tr> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【生】学校に行くのが楽しい 【保】お子さんは学校に行くのを楽しみにしている</td> <td>93.5</td> <td>92.3</td> <td>91.4</td> <td>92.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【生・保】学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている。</td> <td>94.2</td> <td>92.0</td> <td>95.4</td> <td>95.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>【生・教】教員によるICT機器の使用は、授業内容を理解する上で効果的である。</td> <td>90.3</td> <td>88.8</td> <td></td> <td></td> <td>98.3</td> <td>96.7</td> </tr> <tr> <td>【生・保・教】学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している。</td> <td>94.6</td> <td>93.8</td> <td>89.6</td> <td>93.2</td> <td>98.3</td> <td>96.7</td> </tr> <tr> <td>【生・保・教】体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている。</td> <td>98.3</td> <td>98.6</td> <td>98.2</td> <td>98.8</td> <td>94.9</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>【生・保・教】学校はホームページ・ブログや「学習支援連絡網」などで情報をよく提供している。</td> <td>96.4</td> <td>95.6</td> <td>98.4</td> <td>98.6</td> <td>100</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>【生】泉陽高校に進学してよかった 【保】お子さんを泉陽高校に進学させてよかった</td> <td>96.1</td> <td>96.3</td> <td>96.7</td> <td>97.9</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>継続して肯定率の高い項目からは、生徒の自主性が重んじられ、学校からは十分な情報提供が行われ、授業の質も維持されているなどの実態が浮かび上がる。これらを背景に、生徒・保護者ともに学校に対する満足度が高いと考えられる。</p>					質問項目 ※【生】=生徒・【保】=保護者・【教】=教員	生徒		保護者		教職員		R7	R6	R7	R6	R7	R6	【生】学校に行くのが楽しい 【保】お子さんは学校に行くのを楽しみにしている	93.5	92.3	91.4	92.3			【生・保】学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている。	94.2	92.0	95.4	95.3			【生・教】教員によるICT機器の使用は、授業内容を理解する上で効果的である。	90.3	88.8			98.3	96.7	【生・保・教】学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している。	94.6	93.8	89.6	93.2	98.3	96.7	【生・保・教】体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている。	98.3	98.6	98.2	98.8	94.9	100	【生・保・教】学校はホームページ・ブログや「学習支援連絡網」などで情報をよく提供している。	96.4	95.6	98.4	98.6	100	98.4	【生】泉陽高校に進学してよかった 【保】お子さんを泉陽高校に進学させてよかった	96.1	96.3	96.7	97.9			第2回(10月9日) 【アドミッションポリシーの改定案】 ・「進取果敢」を「何事にも前向きで新たな価値創造に果敢に挑戦する」、「中学校以外の活動」を「様々な活動」と表現することで中学生に分かりやすい表現にすることが提案された。 【学校特色枠選抜について】 ・英語資格による加点ではなく、公平性と努力の継続性を重視する観点から、当日の学力検査の成績を活用することが望ましい。 ・募集割合については挑戦意欲を喚起するためにも、思い切った数字を提示するほうが良いとの意見をいただいた。	
質問項目 ※【生】=生徒・【保】=保護者・【教】=教員	生徒		保護者			教職員																																																														
	R7	R6	R7	R6	R7	R6																																																														
【生】学校に行くのが楽しい 【保】お子さんは学校に行くのを楽しみにしている	93.5	92.3	91.4	92.3																																																																
【生・保】学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている。	94.2	92.0	95.4	95.3																																																																
【生・教】教員によるICT機器の使用は、授業内容を理解する上で効果的である。	90.3	88.8			98.3	96.7																																																														
【生・保・教】学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している。	94.6	93.8	89.6	93.2	98.3	96.7																																																														
【生・保・教】体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている。	98.3	98.6	98.2	98.8	94.9	100																																																														
【生・保・教】学校はホームページ・ブログや「学習支援連絡網」などで情報をよく提供している。	96.4	95.6	98.4	98.6	100	98.4																																																														
【生】泉陽高校に進学してよかった 【保】お子さんを泉陽高校に進学させてよかった	96.1	96.3	96.7	97.9																																																																
II. 昨年と同様、三者(二者)ともに肯定率が低いもの(肯定率50%以下) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">教職員</th> </tr> <tr> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【生】読書の習慣がある。 【教】学校の読書活動は適切に行われている。</td> <td>33.5</td> <td>33.7</td> <td>28.8</td> <td>42.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の肯定率は全体として低いが、実は学年進行とともに上がっている(1年30.3%、2年34.3%、3年36.2%)。受験勉強で忙しくなるはずの高学年の方に読書習慣がついているのは興味深い。</p> <p>これまで朝のSHRを「朝読」の時間と位置付けていたが、そもそもSHRの在り方について共通認識を図る必要がある。教職員も読書指導への手立てのなさについて厳しく自己評価しており、今一度、読書の実態を捉えることと同時に、低学年時からの読書啓発にむけて、具体的方法の検討が急がれる。</p>					質問項目	生徒		教職員		R7	R6	R7	R6	【生】読書の習慣がある。 【教】学校の読書活動は適切に行われている。	33.5	33.7	28.8	42.6	第3回(2月12日) 【令和7年度学校評価について】 ・学校への満足度(生徒96.1%、保護者96.7%)、学校行事への評価、ICT活用、情報発信などの満足度が高いことが本校の強みであり、施設設備面と探究活動の充実を促進が課題であることが確認できた。委員の方々より、学校運営への感謝と施設面のさらなる整備についてご意見をいただいた。 【令和8年度学校経営計画について】 ・ご承認いただいた。 【学校特色枠について】 ・ご承認いただいた。 ・重点目標の構成を1.文理探究科準備、2.学力育成と進路実現、3.生徒の自主性・多様性の涵養、4.自律的な学校運営の4本柱とした。最初に文理探究科準備を掲げることで、令和11年度以降の改編に向けて先鋭的に取組む姿勢を評価していただいた。 ・多角的な視点を持った人材が必要とされる現代において、探究活動はその助けとなると期待できるので、積極的に取組んでいただきたいとご意見をいただいた。																																																	
質問項目	生徒		教職員																																																																	
	R7	R6	R7	R6																																																																
【生】読書の習慣がある。 【教】学校の読書活動は適切に行われている。	33.5	33.7	28.8	42.6																																																																
III. 昨年より肯定率が5%以上高くなったもの <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">生徒</th> <th colspan="2">保護者</th> <th colspan="2">教職員</th> </tr> <tr> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【生】学校の生活指導は適切で納得している。</td> <td>86.3</td> <td>80.2</td> <td>92.9</td> <td>93.1</td> <td>67.8</td> <td>73.8</td> </tr> <tr> <td>【生】学校の施設・設備全般について、適切に整備されている。</td> <td>62.5</td> <td>47.4</td> <td>58.1</td> <td>56.5</td> <td>33.9</td> <td>32.8</td> </tr> <tr> <td>【保】学校は、お子さんが卒業生や社会で活躍する方からの話を聞く機会を提供している。</td> <td>77.0</td> <td>76.3</td> <td>90.3</td> <td>85.3</td> <td>91.5</td> <td>90.2</td> </tr> <tr> <td>【教】学校運営に教職員の意見が反映されている</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>93.2</td> <td>83.6</td> </tr> <tr> <td>【教】学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>88.1</td> <td>70.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>■生活指導に関する評価 生徒の肯定率が上昇しているのは、一律的な遅刻指導の在り方を見直したことや、気候に応じた制服の着こなしの導入、あるいは文化祭などにおける制約の緩和など、生徒の意向も尊重しつつ指導内容が見直されてきた結果であると考えられる。しかし一方で、教員側の納得感は低下し、生徒の受け止めと乖離している。生徒指導の在り方について、教職員間での認識を深める必要性が示唆される。</p> <p>■施設・設備に関する評価 教職員からの評価は相変わらず低いが、生徒からの評価は15ポイントもアップしている。これは主に生徒が利用するトイレの洋式化が進んだこと(洋式化率:R4年44.0% R5年</p>					質問項目	生徒		保護者		教職員		R7	R6	R7	R6	R7	R6	【生】学校の生活指導は適切で納得している。	86.3	80.2	92.9	93.1	67.8	73.8	【生】学校の施設・設備全般について、適切に整備されている。	62.5	47.4	58.1	56.5	33.9	32.8	【保】学校は、お子さんが卒業生や社会で活躍する方からの話を聞く機会を提供している。	77.0	76.3	90.3	85.3	91.5	90.2	【教】学校運営に教職員の意見が反映されている					93.2	83.6	【教】学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている。					88.1	70.5																
質問項目	生徒		保護者			教職員																																																														
	R7	R6	R7	R6	R7	R6																																																														
【生】学校の生活指導は適切で納得している。	86.3	80.2	92.9	93.1	67.8	73.8																																																														
【生】学校の施設・設備全般について、適切に整備されている。	62.5	47.4	58.1	56.5	33.9	32.8																																																														
【保】学校は、お子さんが卒業生や社会で活躍する方からの話を聞く機会を提供している。	77.0	76.3	90.3	85.3	91.5	90.2																																																														
【教】学校運営に教職員の意見が反映されている					93.2	83.6																																																														
【教】学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている。					88.1	70.5																																																														

55.2% R6年 60.5% R7年 92.9%)、HR 教室のリニューアル化が施されたこと、窓枠がアルミサッシ化されたことや体育館フロアの張替えなど、校舎の改修工事が進みつつあることが、一定評価されたと考えられる。一方、教職員側は、準備室に空調設備がないことや、雨漏りなど校舎に頻繁に生じる不具合、なかなか新規入れ替えが進まない設備等に対して厳しい評価を下していると思われる。

■教職員の協働に関する評価

上記2項目については 10~20 ポイント近くも肯定率が上昇している。これは R11 年以降の文理探究科への改編が発表され、それに向けての取組みを推進するため新たに組織を発足させ、「今後の学校の在り方の校内研修」や「先進校視察」などを行い、教職員で話し合う機会が増加したことによると考えられる。

IV. 昨年より肯定率が5%以上低くなったもの

質問項目	生徒		保護者		教員	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6
【保・教】 お子さんは学校の授業や補習、講習で進路達成に必要な学力が身につくと言っている。			73.9	80.4	94.9	98.4
【教】 人権教育は適切に行われている。	94.3	93.5	89.5	91.6	79.7	90.2

■授業・講習等に関する評価

保護者の肯定的評価がかなり落ち込んだ。講習などについては、ここ数年の中で取り組みに大きな変化はなく、保護者の評価も R6の評価を除けば7割程度の肯定率で大きな違いはない。経年変化の中で見ると今年度評価は比較的高い方である。R6の評価が突出して高い理由は不明。

■人権教育

R7については、生徒が学校生活の中で尊重され、安心して過ごしているという実感をもっていることから、生徒評価は高い水準を維持している。保護者についても、概ね高い評価が見られる。一方で、教員の評価が大きく低下した背景には、人権教育の「実施」そのものではなく、「学習としてどこまで身につけているか」「学年や担当による取組の差がないか」といった点に対する評価があると考えられる。

VI. 学年によって肯定率が大きく違うもの

質問項目 「総合的な探究などの学習活動によって、深く考える力・情報を収集する力・発表する力が身につく。」

	1年生	2年生	3年生	平均
R7	82.9	72.4	78.0	77.7
R6	82.5	75.7	82.8	80.4
R5	69.7	69.6	71.0	70.0

今年度、探究に対する評価は、特に1・2年生で 10 ポイントもの違いが出た。

1年生の探究は、課題があらかじめ設定されており、取り組む内容や方向性が明確なため、負担感が少なく、「探究に取り組んでいる」という実感につながりやすい。一方、2年生では、計画から実行、検証までを主体的に進めることが求められる。試行錯誤の負荷や見通しの立てにくさが増し、探究そのものを「ハード」と感じる生徒が一定数存在することが、数値の低下に表れていると考えられる。この捉えは R6の結果からも推認され、探究活動の質が低下していることを示すものではなく、むしろ学年進行に伴い、探究のレベルが高度化していることの見られ表れとされる。なお、R6から評価が明らかに高まったのは、学校として組織的に取り組みを進めた結果である。

府立泉陽高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 育成する グローバル社会を生き抜く高い学力を	(1)学力定着・向上 (2)教員の授業力の向上 (3)DXHS等としての取組推進	(1)「個別最適化」に向けての具体的な取組を検討する。 (2)ア 授業力向上PTの取組をもとに、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 イ 授業アンケートの振り返りシートを活かし、自らの授業改善をめざす。 ウ ICT部が中心となる研修を継続・発展させ、生徒の主体性を引き出すべくICT機器を活用する。 (3)ア DX事業で環境を整備し、昨年度からの多様な探究活動を深化発展させる。 イ 普通科改革を進める先進校に学ぶ。	(1)2年次「第1回学力生活実態調査」における国数GTZ「A2」以上。[A3] (2)ア 生徒向け自己診断「分かりやすく興味を持てる授業が多い」の肯定率80%以上維持。[83.8%] イ 教員向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率90%以上維持。[100%] ウ 生徒向け自己診断「ICT機器の使用は効果的」の肯定率90%以上。[90.6%] (3)ア 生徒向け自己診断「『総合的な探究』などの学習活動によって、思考力、情報収集力、発表力が身につく」を前年度より上げる。[80.4%] イ 先進校視察の継続実施。[1校]	(1)2年次「第1回学力生活実態調査」における国数GTZは「A2」。(○) (2)ア 生徒向け自己診断「分かりやすく興味を持てる授業が多い」の肯定率88.5%。(◎) イ 教員向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率100%。(◎) ウ 生徒向け自己診断「ICT機器の使用は効果的」の肯定率90.3%。(○) (3)ア 生徒向け自己診断「『総合的な探究』などの学習活動によって、思考力、情報収集力、発表力が身につく」の肯定率77.7%。(○) イ 先進校視察の継続実施2校。(○)
2 生徒の進路実現をめざす 高い志を高くくみ、すべての	(1)モチベーションの高揚を図る (2)チーム泉陽による進路指導体制の確立	(1)ア 学部・学科調べ、職業調べ、大学説明会や大学訪問、卒業生の講話などを通して、高い志を育む。 (2)ア 本校の進路指導方針である「泉陽CGD」の共通認識を図る。 イ 学年ごとに模試結果についての学力分析会を実施し、その分析結果を踏まえ、教科としての対応・取組を明確化する。	(1)ア 生徒向け自己診断「本校の進路指導は進路を選択する上で役立つ」の肯定率85%以上維持。[90.0%] (2)アイ・教員向け自己診断「進路指導は適切に行われている」の肯定率90%以上維持。[98.4%] ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合を40%程度に。[37.4%] ・自己診断「学校は進路HRなどで進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率85%以上。[生徒93.8%、保護者93.2%]	(1)ア 「本校の進路指導は進路を選択する上で役立つ」の肯定率91.3%。(◎) (2)アイ・「進路指導は適切に行われている」の肯定率98.3%。(◎) ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合は43.9%で過去最高。(◎) ・「学校は進路HRなどで進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率は、生徒94.6%、保護者89.6%。(○)
3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1)協力協働の社会的精神の育成 (2)社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成 (3)読書活動の推進と幅広い教養の育成 (4)異文化理解の深化と国際的視野の拡張	(1)ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ 「自主的な学校行事」はもとより、制服や校則なども含め学校生活に対する生徒の自主的関与をさらに深める取組を促進する。 ウ 堺市堺区や堺警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 (2)ア 人権教育推進委員会を核に、3年間を見通した人権教育計画を策定する。 (3)ア 朝読やビブリオバトル、リーディングマラソン、百人一首大会、「青春の短歌大会」などの取組を活性化させ、読書習慣につなぐとともに幅広い教養の育成をめざす。 (4)ア 海外語学研修等を継続・発展させるとともに、姉妹校提携に向けての取組を進める。 イ 「AIG 高校生外交官プログラム」等への応募を推奨する。	(1)ア 生徒向け自己診断「部活動と勉強の両立ができている」の肯定率75%以上。[73.5%] イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率90%以上維持。[98.6%] ウ 生徒向け自己診断「社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の肯定率85%以上維持。[92.0%] (2)ア 生徒向け自己診断「学校の人権教育は適切」の肯定率85%以上維持。[93.5%] (3)ア 生徒向け自己診断「読書の習慣がある」の肯定率40%以上。[33.7%] (4)アイ 語学研修等への参加者数を35名程度で一定維持する。[32名]	(1)ア 生徒向け自己診断「部活動と勉強の両立ができている」の肯定率74.7%。(○) イ 「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率98.3%。(◎) ウ 「学校は社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の肯定率94.2%。(◎) (2)ア 「学校の人権教育は適切」の肯定率94.3%。(◎) (3)ア 「読書の習慣がある」の肯定率33.5%。(○) (4)アイ 語学研修等への参加者数は38名。(カナダ29名、ベトナム9名) (○)
4 教職員集団をつくる チーム泉陽として課題解決にあたる	(1)全教職員で取り組む組織文化の醸成 (2)教育相談体制の整備と外部機関との連携 (3)業務の削減・効率化・平準化の推進	(1)ア 各組織や会議における取組状況について、学校掲示板の活用により情報共有を推進する。 イ 既存組織では扱い難い全校的な学校課題について、機動的に検討会議等を開催し対応する。 (2)ア 教育相談・生徒支援体制を強固にし、SC・SSW等の外部人材の活用を図る。 イ ホームページやブログ記事、進路ニュース、保健だよりなど各種文書の配信によって学校の状況を保護者等に届け、生徒支援に繋げる。また、発信ツールとしてのSNSの活用について検討する。 (3)ア 各分掌等におけるルーティン業務を見直し、削減・効率化を図る。 イ 学校部活動方針(休養日等)及び全校一斉退庁日の遵守を推進し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。	(1)アイ 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」の肯定率80%以上。[70.5%] (2)ア 生徒向け自己診断「困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる」の肯定率80%以上維持。[84.7%] イ・保護者向け自己診断「生徒の健康に関する情報提供」の肯定率85%以上維持。[86.4%] ・保護者向け自己診断「学校は情報をよく提供している」の肯定率85%以上維持。[98.6%] (3)アイ・教職員の時間外在校等時間数を前年度より5%以上減少させる。[30時間14分] ・時間外在校等時間数月80時間以上の職員を前年度より減少させる。[延べ15人]	(1)アイ「教育活動について、日常的に話し合っている」の肯定率は88.1%。(◎) (2)ア「困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる」の肯定率86.6%。(◎) イ・「健康に関する情報提供」の肯定率88.4%。(○) ・「学校は情報をよく提供している」の肯定率98.4%。(◎) (3)アイ・時間外在校等時間数の月平均は33時間32分で、昨年比減少とならず。(△) ・時間外在校等時間数月80時間以上の職員は延べ19人。(△)